

教師が20代までに身につけておきたいスタートアップスキル

なんで

学級経営が

うまくいかないのか

を解決する法則

マンガで
読める!

基礎編

最初に読みたい51の法則

著／向山洋一・前田康裕

解説／TOSS静岡



目次

第1章 新卒教師が、まず身につけたいスキル

■ 新卒教師の五力条	8
1 あいさつは自分から	9
2 自分から教えてもらう	13
3 身銭を切って学ぶ	17
4 他人より10%多い努力	21
5 研究授業は進んでやる	25

第2章 授業の腕を上げたい人の最重要スキル

■ 授業の原則十力条	30
1 趣意説明の原則	31
2 一時一事の原則	35
3 簡明の原則	39
4 全員の原則	43
5 所・時・物の原則	47
6 細分化の原則	51
7 空白禁止の原則	55

8 確認の原則	59
9 個別評価の原則	63
10 激励の原則	67

第3章

授業を研究し、“名人”を目指すためのスキル

■ 授業の定石	72
1 研究を重視する	73
2 研究報告は“大作主義”で	77
3 原点にこだわる	81
4 授業を通す	85
5 研究仲間をつくる	89
6 やることを限定する	93
7 自分の考えを示す	97
8 嘘をつかない	101
9 楽しくやる	105
10 志を立てる	109

■ 子どもを動かすただ一つの法則と五つの補則	114
1 4月の初めにあること	115
2 組織化のイメージ	119
3 3つの仕事分野	123
4 向山学級組織図 その1	127
5 向山学級組織図 その2	131
6 活動をつかみ評価する①	135
7 活動をつかみ評価する②	139
8 偶発の問題への対処	143
9 どんな活動をさせるか	147
10 2つの活動の方向	151
11 はじめに夢がある	155
12 次に策が必要である	159
13 教育の仕事に対する夢	163
14 子どもイベント集団	167
15 チャレラン	171
16 イベント花ゲリラ	175
17 イベント実行委員会	179
18 イベント創造	183

19 規則	187
20 中学への親子の不満	191
21 仕事にはロマンがある	195
22 豊かなイメージをもつ	199
23 夢を具体化させる	203
24 リーダーは生まれる	207
25 スターの条件	211
26 別れに夢を描く	215
TOSS用語解説.....	219
あとがき.....	225
刊行によせて.....	229



文中に出て来る TOSS とは、教師による研究団体です。

授業にすぐに役立つ教育技術・指導法を開発し、集め、実践し、検討しあって自らの授業技術を高め、そのような技術や方法を全国の教師の共有財産にしようと努める教師の研究団体です。会員は1万人を超える、日本最大の教育研究団体です。

著者の向山洋一氏は TOSS の代表です。

そのため、文中には TOSS で使われている専門用語が出てきます。

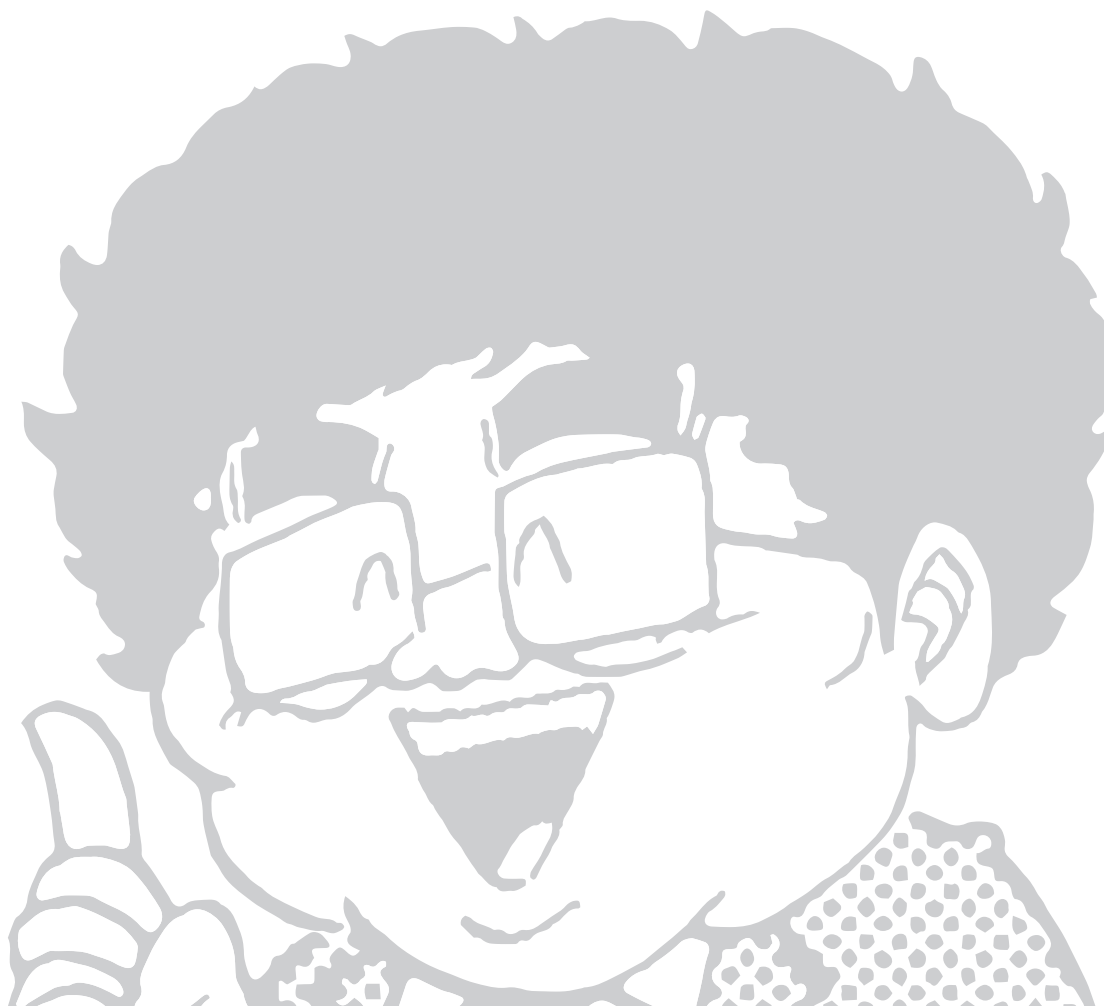
文中、右下に▲がついている語句は、そういった「TOSS用語」や、向山氏に関連する人物名などです。P219からの「TOSS用語解説」に説明が掲載されています。

この本は1998年に明治図書から刊行された『教師の仕事365日の法則』に新しい原稿を加えて再構成したものです。

編集部

第1章

新卒教師が、 まず身につけたいスキル



新卒教師の五カ条

- 1 あいさつは自分からせよ
- 2 わからないときは自分から教えてもらえ
- 3 プロの技術を身につけたいなら身銭を切れ
- 4 プロ教師になりたいのなら他人より10パーセント多くの努力をせよ
- 5 研究授業は自分からすすんでやれ

教師があいさつすれば
子どももあいさつ
するようになる



あいさつは自分から

教師があいさつすれば子どももあいさつするようになる

あいさつができる人は、人間として上等であると思っている。

あいさつは誰でもできそうだが、できない人もいる。

会社の幹部登用に「あいさつがちゃんとできる人」を基準にしている所は多い。

それほどに「人間」の器を反映する。

大人になって、全くあいさつできない人が近所にもいるし学校にもいる。そういう人は、どこか変わっていて、人間としても冷たい。教師としては失格だろう。

つまり、「あいさつ」を上手にできる教師は上等な教師であるし、「あいさつ」をしない教師は教師として失格であると言えるだろう。

こういう書き方をすると、100人が100人「自分はあいさつをする方だ」と思いがちなので、もう少し具体的に書こう。

学校への登校途中、子どもたちに会う。そんな時「〇〇ちゃんおはよう」「おはようございます」と、大きな声で毎日、10回以上言う教師は、あいさつをする方だろう。

そして、教員室に入るとき、元気に「おはようございます」と言って完結する。

体育会系の青年教師の中に、さわやかに元気にあいさつする教師がいるが、当然ながら、子どもにも保護者にも好かれている。

登校途中に、子どもに会ってもあいさつをしない教師は、これは駄目だ。

もっとも、7時には登校するという教師なら、少しは事情が違ってくる。



「この学校の子はあいさつしないわね」と言っている教師も、まるで駄目だ。
あいさつは、教師からするのである。

子どもが返事を返さなくても、5回、10回、50回と続けていって、いつしか子どもの方から言うようになる——それが教育だ。そうするのが教師の仕事だ。

私が小さかった頃の前風景がある。

母と町を歩くと、実に多くの人とあいさつをしているのだ。びっくりするほどの多さだ。

となりのお姉ちゃん、うしろのお兄ちゃんにも声をかける。

「お母さんは誰とでも、あいさつするよ。あのお姉ちゃん、小学生の時はちゃんとあいさつしてたけど、中学生になったら恥ずかしそうにしている。

でも、そういう年頃ってあるんだよ。お母さんが声をかけていると、また何年かするとあいさつするようになるよ……」

小さい私には「何年かするとまたあいさつするようになるよ」という母の考え方は、実に間のびして思えた。でも、それが教育の根幹と知ったのは数十年を経たからである。

1

子どもが嬉しくなるあいさつを 教師がする

あいさつは今日からする。それも最高の笑顔で。

子どもが嬉しくなる挨拶をするために、毎朝、
顔のマッサージと笑顔の練習をする

手塚 美和

解説

——現在の視点から

教師になってからずっと、「あいさつができる子」を育てることを考えていた。どの学校に赴任しても、「あいさつができる子」が教育課題にあげられるからだ。だから、「子どもから進んであいさつができたか」ということだけを評価していた。

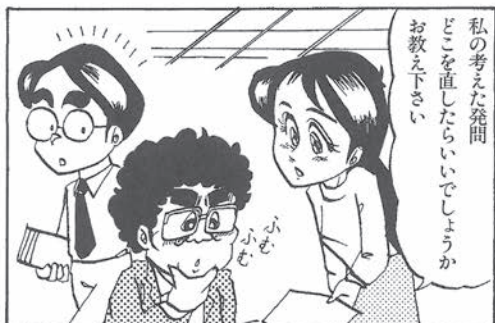
あいさつは教師からするんだ。何度あいさつしても、返事しない子がいても、それでも繰り返し教師から笑顔で「○○さん、おはよう」と言い続けることが大切だ。

このことを向山氏から教えられた時はとても驚いた。自分はなんて小さな視点で子どもを見ていたのだろうかと思ひ反省した。

向山氏の笑顔はとても優しい。朝、子どもに出会ったら、一番良い笑顔で「おはよう」と言うよう心がけている。

2 自分から教えてもらおう

「このような教師になりたい」という願望は、
教師の心を強く豊かにする



2

自分から教えてもらう

**「このような教師になりたい」という願望は、
教師の心を強く豊かにする**

教育心理学者は、魅力的な方が多い。

多分、教育心理学は、常に「現場」に視点をあて「事実」「調査」を「数量的」に分析しているからだろう。

その論には、説得力がある。

私がとても面白いと思った本に『範は陸幼にあり』（講談社）がある。著者は、教育心理学者の国分康孝氏だ。陸軍幼年学校での教育経験がもとになっている。

陸軍幼年学校は、戦前、最も人間を大切にした学校であった。自由もあった。この本は、教師なら必ず目を通してほしい名著である。

国分氏は、長年都立教育研究所などで、教師の心の悩みをカウンセリングしてきた。

その国分氏が、前著の中で次のように言う。

「私は長年、教師のカウンセリングを担当してみて発見したことは、自信のない教員（自分は教員不適格者だと思い込んでいる人）の多くは、『私もあんな教員になりたい！』と憧れるような教師に出会ったことがないのが特徴であった」

「あんな教員になりたい！」と思える人に出会えるには、本人の心に求める心がなければならない。

「自分は自分のやり方でやる」というような思い上がった教師には「憧れる教師」は見えはしない。自分1人が偉く見えてしまう。



若いときは、それでも若さの華で、子どもをひきつける。しかし、人は必ず年をとる。年とともに、華を失い、気がついたら教室は騒乱状態になっていたという教師は、山ほどいる。

仕方がないので管理職にしたという例もある。

どんな学校にも、1人か2人、すばらしい先輩はいる。

そういう人は「研究授業」にまじめだ。「あれこれ言って」研究授業を避ける教師は、最低レベルの教師だから、付き合わない方がいい。

私が尊敬する何人かの先輩教師は、「私の授業を見てね」と、半ペラほどの指導案を学年に配り、進んで「学年研究授業」をしてくれた。

すばらしい先輩は、いろんな本を読んでいる。知性的だ。

すばらしい教師は、子どもに温かい。包み込むような優しさがある。

すばらしい教師は、知的でセンスも良い。ある種のカッコ良さがある。

そういう教師を見つけ、こちらからうかがって教えるのである。

謙虚で、学ぶ意欲のある青年教師を、そういう人は、必ず大切にしてくれる。

2 分からないときは 自分から教えてもらおう

どんな学校にも1人か2人、素晴らしい先輩がいる。

「このような教師になりたい」という願望は、

教師の心を強く豊かにする

松井 靖国

——現在の視点から

解説

新卒で赴任した学校には4年間いた。学校の先生は異動で毎年入れ替わるが、4年間ずっと、尊敬できる先生がいた。とても幸せな4年間だった。

1年目。休み時間には、いつも周りに子どもが集まっている先生がいた。どの子も笑顔で、先生という時、楽しそうだった。その先生は新卒3年目。夜、職員室でその先生に「どうして子どもが笑顔なのか」を聞いた。その先生は、「授業を面白くするように努力することだよ」と教えてくださった。思い切って聞いてよかった。授業を工夫することで、子どもが笑顔になることを、1年目で知ることができた。

3年目。子どもが50m走を何本も真剣に走っている体育の授業を見た。どの子も力を最後まで抜かずに、何本も自分から挑戦して走っている様子だった。その先生に教えを乞うと、その先生は「体育館で教えるよ」と言って、「速く走る技術」を実地で教えてくださった。教師としての技量を高める方法は、自分から教えてもらうことだと痛感した。